

平成 30 年 6 月 13 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370135

研究課題名(和文) 奈良時代寺院と仏教美術に関する未開拓の基礎的研究 密教と神仏習合を中心に

研究課題名(英文) Unexplored Avenues: The Esoteric and the Sacred in the Buddhist Arts and Temples of the Nara Period

研究代表者

BOGEL CYNTHIA (BOGEL, CYNTHIA)

九州大学・人文科学研究院・教授

研究者番号：50637931

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：今日の奈良時代の解釈には根源的なずれがある。本研究の目的において以下4点を考察対象として特記しておいた。1) 古密教とは何か、2) 8世紀の神と仏の関係の実態と言葉の妥当性、3) 地方性：畿内以外の地方、特に九州の意義、4) 奈良時代初期、東大寺大仏殿建立以前の仏像と寺院。本研究では、これらのずれの原因を理解し、また現存遺物を元にずれを解消していくための背景を明示した。最終的に、8世紀の仏像仏画の特徴を理解するためには、仏教信仰や神のあり方の当時の受け止められ方に関する概念を修正すべきであり、密教という言葉自体が存在していないという理由から古密教という言葉を使うべきではないという2点の結論を得た。

研究成果の概要(英文)：There are fundamental gaps in our understanding of the Nara period: the use of the term komikkyo; the character of eighth-century kami representation; icon production outside Kinai, especially Kyushu; statues and temples before the Todaiji Daibutsuden. My research notes the dearth of appropriate terms and concepts for the “esoteric” and the limitations posed by few remaining icons. In order to understand the nature of eighth-century icons we must revise our notions about what constitutes “Buddhism” during certain periods, recognize misleading ideas about kami-related practices and their modern sources, and endeavor to critique the history promoted in the Nihonshoki--especially as it relates to the formation of a Chinese-style imperial state--to understand the relationships of ruler and religious institutions and practices ca 820 and the opportunity it provides to reexamine early Nara temples and shrines. Last, we should dispose of terms like “old Mikkyo.”

研究分野：美術史

キーワード：仏教美術史 仏像 奈良時代 古密教 薬師寺 神仏 世界観 日本書紀

1. 研究開始当初の背景

これまでの研究では、鎮護国家や華嚴経思想を軸に成果が蓄積されてきたため、奈良時代の日本の仏教を、畿内を中心とする中央集権的な政治体制の一環として理解することが主流となってきた。本研究では、奈良時代の仏像が現存する九州を含む周辺地域にも視野を広げることで、8世紀の日本の仏像表現のあり方、仏教文化の多様性を解明する。奈良時代の仏教美術に関しては、六大寺それぞれの特色を軸に研究が蓄積されてきたが、六大寺においては密教的な儀礼や造形も盛んだったことを示す検討材料が豊富に存在する。同時に神仏習合の例が、仏教儀礼に用いられたことの意味を再検討する必要がある。

また近年関心が高まっている「古密教」の概念モデルの限界に着目することによって、空海が9世紀に請来したものは別の体系的な密教が8世紀のアジア諸国で共有されていた可能性の模索、また奈良時代仏教美術と中国を中心とするアジア各地との比較という新たな研究課題が浮上する。特に、神仏習合思想とそれに基づく造形が、8世紀のアジア各地で広汎に確認できることを、中国神仙思想に由来する仏像における造形的特徴などの作例の比較を通じて明らかにする。

8世紀の仏教美術史に関する本は33年間、論文は15年間英語で出版されていないため、上記の多様性の解明という新たな側面を、西洋美術のアイコンの観点と融合することで、申請者の総合的な研究が日本だけではなく欧米にとっても重要になることが期待される。

2. 研究の目的

本研究の包括的な目的は8世紀の宗教的慣行と信仰の表象（造形と概念の双方）を理解することである。

8世紀初期の東大寺大仏殿以前の仏像、神に関する考え方（神宮寺、奈良時代後期の神像などに見られる）、古密教とその表現、地方性は、当時の儀礼や思想を定義することが難しいため、これらは、分析及び追跡調査が困難な8世紀における4つの分野となっている。本研究の目的を達成するためにこれらに焦点を当てて調査を進める。

日本の密教研究では、空海が請来した真言密教を中心として既に多くの研究成果が挙げられてきたため、それ以前の奈良時代の初期密教の視覚文化に焦点を当てる。本研究の調査対象である原資料や仏画・仏像などは、すでにその存在が知られているにも関わらず、先行研究では看過されてきた。これらの存在を奈良時代の場所（寺院・寺院間の関係）及び山岳修行者が寺院にも出入りするといった、宗教的コンテクストに基づき、それらが果たした機能や性格について考察を行う。

これによって、国家仏教としての初期仏教の役割に新たな一面を発見することが期待される。さらに8世紀の日本の奈良時代仏教美術と他のアジアの国々に関する調査を進め、比較研究していく。

考察に際して以下の項目に焦点を当てて行う。1) 不空罽索観音における密教像としての性質：東大寺と興福寺の不空罽索観音について、密教の修法との関わりから分析する。2) 唐招提寺木彫群の歴史的背景：唐招提寺に現存する8世紀後半の仏像群の造形的特徴を分析し、これらが檀像に似せようとして作られたのか否か、またなぜ唐招提寺で変化観音像を含むそれほど多くの仏像が必要とされたのか、これらの疑問について密教儀礼空間との関わりから考察する。3) 北部九州に現存する、奈良時代の木造菩薩立像の調査・研究：北九州市謹念寺の木彫群変化観音像、宇佐で最近発見された天福寺奥院木彫群仏像などを対象として、作品調査と関連文献の精査を行う。これらの仏像について、北九州独自の系統や様式を考察すると同時に、畿内の寺院や僧侶との関連をも視野に入れて分析を行う。4) 仏教と中国の神と神仙思想の習合：8世紀の仏像における中国神仙思想に由来する造形的特徴を分析する。5) 山を司る神と仏像の習合：薬師如来の形を持つ神像、天部および僧の形で表される神像の信仰上の意味について考察する。6) アジアと日本のアイコンとの関連性：従来古密教との関係に十分な関心が払われてこなかった日本とアジア諸国（インド、ヒマラヤ周辺、東南アジア[ブータン、ビルマ等]、中国と韓国）のTantrism（密教）、東アジアの神、また、10～11世紀のインド、東南アジアや韓国の遺物等の調査を通し、これらの造形と奈良時代の仏教美術との関連を抽出する。7) アイコン研究に関する方法論を援用する。：1989年に刊行された”The Power of Images (Michael Freedberg, 1989)”以降、欧米における美術史研究では、アイコンの機能や見る人へ与える影響にも着目した重要な研究や出版物が発表されてきた。宗教的アイコンが人に対して引き起こす、特徴的な行動や感情についての分析が進展した。このような方法論は日本の学術研究において、未だ十分に導入されていないが、本論文において掲げた応用可能な仏教美術の研究方法を積極的に日本の密教文化の考え方に導入していく。

研究期間中に以下の地域、寺院について調査を行う。1) 東大寺：変化観音、悔過儀礼、盧舎那大仏蓮台線刻の須弥山図の意味、大仏開眼の為に制作された五大力菩薩像（仁王経）について分析する。東大寺は華嚴だけでなく、陀羅尼といった国外の僧がもたらした密教的な影響を受ける場所であったため、資料、作品を調査する。八幡像の信仰も着目すべきポイントである。2) 新薬師寺及び西大寺：新薬師寺周辺で行われた発掘調査により、新薬師寺の金堂は東大寺のものより大規模

で、七仏薬師像が安置されていた。七仏薬師像は古密教經典に基づく尊格でありとても重要である。また西大寺の資材帳には、伽藍と堂に関する内容が詳細に記載されている。その中には、変化観音堂（例えば不空羂索堂、孔雀堂）とその中に安置すべき像が沢山挙げられている。先行研究において看過されてきた、実際の遺品が残っていない西大寺と密教との関係を西大寺の研究により明らかにしていく。

これらの調査、研究によって奈良時代の定義自体が変わる可能性も秘めている。

申請時に焦点を当てていた4つの項目については、研究調査を進めて得られた結果、発見を含めて4.研究成果において詳述する。

3. 研究の方法

研究目的に述べた内容について、4年間の研究期間において以下の内容を実施する。

(1) 8世紀の密教およびその造形に関する、和文及び欧文文献を収集する。

(2) 国内外での史料調査を踏まえ、高精細画像を収集する。収集した画像と文献に基づき、8世紀仏教美術の図像的特徴を分析する。

(3) 雑密奈良時代の寺院と仏像に関する博士論文で述べた研究内容を再考する。

(4) 研究成果の報告と方法論の共有化を目的とした国際会議、ワークショップを開催し、収集した画像を用いた学術論文の発表と平成30年に刊行予定の学術書の準備を行う。

平成26年度には本研究基盤の整備のため、本研究の前提となる研究代表者の博士論文“Ritual and Representation in Eighth-Century Japanese Esoteric Buddhist Sculpture”(1995年、ハーバード大学提出)を再考し、研究対象を絞り込む。また、参考文献(一次資料及び論文)を精査し、現時点で欠けている文献は新規購入する。

また、奈良及び滋賀の寺院・史跡を集中的に調査する。特に十一面観音等の変化観音が安置されている寺院を対象とし、仏像及び儀礼・資材帳・伽藍計画・建立の歴史等の記述がある資料を調査・分析する。奈良・東大寺の法華堂及び二月堂内に多数配置される仏像を調査すると同時に、東大寺八幡信仰と神像に関する考察も行う。

加えて、北部九州の中でも太宰府・大分・宇佐を訪れ、これまで注目されてこなかった8世紀の神仏習合が九州という場においていかに展開したのかについて現存遺跡・建築・仏像・文献を通じて考察を深める。九州国立博物館における「大神社展」を通じて古代奈良や神仏習合についての考察を行う。

平成27年度には北部九州の調査に加え奈良時代後半に建造された新薬師寺と西大寺を中心に国内調査を行う。新薬師寺は周辺の発掘調査の結果から金堂及び七仏薬師像の重要性を考察する必要があると考えたため、西大寺は『西大寺資材帳』から建設構想

には密教的な堂宇と仏像・仏画が含まれていたことが看過されてきたためである。この調査は、本研究者の研究の方法論である、仏像・仏画(アイコン)と建築(内部空間)の関連性、仏具又は作品用式に、儀礼・經典・図像(iconography)等の仏教的背景を重ねて総合的に考察する、仏教視覚文化学的視点から行う。

9月に密教視覚文化の調査を目的にブータンに赴き、タンカ(密教絵画)を調査する。ブータンは真言密教と異なる曼荼羅文化を持つことから、ブータンと奈良時代の曼荼羅の源流について共通点と相違点を探る。

上記の調査にあたって西大寺の『西大寺資材帳』など、儀礼、資材帳、伽藍計画、建立の歴史等の記述がある難解な一次資料等の精読と、外国語文献の部分的翻訳、調査後の画像及び資料のデータベースの作成・管理、文献整理を行う。

10月には香港大学で、ブータンと中国の密教についての討論を行い、翌1月には前年度より計画していたワークショップ「ブータンのタンカ[仏画]の保存」を開催する。さらに、東大寺法華堂に関する論文を前年度の研究に基づいて発表し、東洋学会で発表する。平成28年に開催する国際学会の開催、薬師寺薬師如来台座のモチーフに関する論文刊行、「西大寺資材帳」と仏像に関する論文出版の準備を行う。

平成28年度には、奈良の寺院探訪、神仏習合の研究を継続して行うほか、奈良時代初期の薬師寺、興福寺、大安寺を中心に寺院と仏教美術に関する文献を精読し、神道的・道教的なものとの相互作用を考察し、大安寺における道教的な儀式(求聞持法)の起源や山岳修行等を調査する。

海外調査は、インド、ヒマラヤ山脈周辺地域ラダクのアルチ修道院を訪問し、10世紀制作の壁画を精査する。本壁画は10世紀の作例にも関わらず古密教の思想に基づいており、図像的意味の読解によって、奈良時代の仏教視覚文化の国外からの影響を考え、源流における共通点あるいは相違点の発見ができることを期待する。

奈良時代の神仏習合の源流を考察していき、学会を開催する。

平成29年度からは滋賀、特に甲賀において、8世紀に仏像が制作されていた場所や、多数の遺物を保存する滋賀歴史博物館などを探査し、奈良時代初期の近江における神仏習合について検討する。

国外の活動では、台湾・中央研究院に赴き、研究者と討論を行う。また、本研究の成果としての著作「奈良時代寺院と仏教美術に関する未開拓の基礎的研究—密教と神仏習合を中心に」Unexplored Avenues: Nara Period Religious Arts and Modes of Representation (仮題)の執筆を開始する。

4. 研究成果

今日の奈良時代における仏教美術の解釈の仕方には、根源的なずれがある。最初に述べた本研究の目的の中で、本研究者は以下の4点を特記した。1) 古密教とはどういうものか、2) 神仏集合と8世紀に対するその言葉の使用の妥当性、3) 地方性、すなわち畿内以外の地方、特に九州における意義、4) 奈良時代初期、東大寺大仏殿建立以前の仏像と寺院。

4年間にわたる本研究により、これらのずれの原因を理解し、また現存遺物を元にこれらのずれを解消するための背景が明らかになった。

考察結果は、まず第一に、8世紀の仏像や仏画の特徴を理解するためには、仏教信仰や神のあり方について、私達の基本的な概念を修正することからはじめなければならないという前提を確認したことにある。したがって、中国にならった国家体制を採択した日本が、仏教信仰や神のあり方を受容するにあたって、そもそも密教という言葉は、当時、存在していなかったことが、ずれの原因であり、それ故に解釈の前提として古密教という言葉を使うべきではない。

仏像・仏画はレプレゼンテーション（代替物）・表現であると同時に、神の媒体または神そのものでもある。奈良時代には、方便(upayakausalya)に関する教え、すなわち仏は個人の能力に応じた理解ができるように様々な形で教えを説いたという概念が存在していた。したがって仏教における方便は、言葉や表現は決して完全なものではないことを示唆し、世俗諦（衆生）が仏を表現したり想像したりする上で、必要な方法であった。

それに対し、空海は、『請来目録』の記述において、曼荼羅を「一観成佛」すれば、媒介なしに即身成佛が成し遂げられる、と述べている。すなわち、密教における方便では、悟りを得るために必ずしも媒介を必要としないと言うことができるのである。

それゆえ本研究者は、奈良時代の仏像や仏画の表象に古密教という言葉を使うことはふさわしくないばかりか不可能であると考え。曼荼羅の根源的な力による「一観成佛」（一目で悟りを得ること）は、仏像を拝んだり読経したりすることで悟りを得ることとは全く性格を異にする。しかしながら、奈良時代に使われた同じ仏像と仏堂が、空海以後の平安時代の寺院でも使われた。これは空海が平安京に新しい真言密教を請来したことから当然のことでもあった。平安初期の密教寺院の中に奈良のような機能を持つ仏堂もたまに存在するが、その例は決して多くはない。密教の仏堂に置かれている仏像は同じ様に見えてもその役割は違う。本研究者は、密教、神仏習合、国家仏教といった定義を使って奈良時代の仏像解釈を単純化しすぎたことが、私達が奈良時代の仏像・仏画、特に奈良時代の大仏殿プロジェクト以前の仏像の

真の特徴を理解することの妨げになったと結論づけた。

その意味で、私達は飛鳥後期の理解をさらに深めるべきである。というのは、飛鳥後期から奈良初期の仏像および如来台座のモチーフは、8世紀半ばの聖武天皇と大仏の年間のものとは非常に異なっているからである。8世紀半ばから仏像により世界観を表現すること、また仏像・仏画の制作や読経する目的は鎮護国家のためとなる。それ以前の法隆寺玉虫厨子、橘夫人厨子、法隆寺釈迦三尊の釈迦如来台座と薬師如来坐像、さらに薬師寺薬師如来坐像からわかるように、台座に施された非常に多様なモチーフを見てみると、そこには仙人と修行と飛天と山水のような様々な思想・信仰の世界が仏像の下に表されている。薬師寺の台座には四神を見ることもできる。これらは典型的な仏教表現ではないが、その時代の世界観を示したものに他ならない。

実際、奈良薬師寺薬師如来像を支えている台座は、飛鳥後期670年に発願され、その数年後、藤原京で建立された薬師寺（本薬師寺）で作られた像の台座のコピーか、もしくは、天武・持統の治世を顕彰するレプリゼンテーションとして新たに平城京のために制作されたかと本研究者は考えている。台座の表現がどのように決定されたのかについて判断する手段がないため、必ずしも建立企画者によって構案された表現とは言えないが、表現にあたってその世界観が媒介 agency となって制作されたことに変わりはない。当時の社会や政治、正史編纂との関連を考慮すれば、銅製の台座にある浮き彫りの風変わりな像と、一見して仏教的ではないと見做されてきたモチーフによる表現と組合せ等も、薬師如来像と合わせて、その制作意図に光を当てる決定的な情報を示唆するものとなるだろう。

本研究者は、当時の宗教的背景についての推定や、台座の解釈の枠組みを形成していた支配と信仰の象徴性に注目するようになった。より深い理解のために本研究者が示唆したい点として、以下2点が挙げられる。

一つ目は、7世紀後半から8世紀初頭の天武天皇と、彼の重要な配偶者であり後継者であった鸕野讃良皇女（死後に持統天皇の諡号）の治世下における広い宗教的及び思想的展望の中で、本台座を位置づける分析である。本研究者は、当時の政権における仏教や中国渡来思想と関係する諸行事と並んで、大和政権下における仏教の実施といった重層的な文脈を考慮する。

二つ目は、薬師寺薬師如来像台座のフレーミング（分析）を通して、天武天皇（或いは歴史や詩文の中で表された天武天皇）、その後継者たち、また彼らに登用された専門家集団としての渡来人を理解することである。古事記(712)・日本書紀(720)や万葉集(759)に反映されている大和朝廷の世界観から窺えるように、そこには、中国的な国家体制の枠組

みが存在している。薬師寺薬師如来台座のイメージ解釈の枠組みに対しても、こうした当時の国家体制を念頭に、その設定を修正する必要があると本研究者は考える。記紀・万葉集には、天武天皇と持統天皇が始動したと思われる同時代の人々の複雑なイデオロギープロジェクトを見出すことができる。台座の表現はこれらの文献と軌を一にし、「日本」成立の歴史の生成物であり、天武天皇にまつわる歴史の一部を形成しているのである。

7世紀後半の政権における世界観の働きとその形成に関する考察は、本研究者の研究の核となる方法論である。このフレーミングを用いた台座のモチーフ解釈が、長らく理解困難とされてきた台座のレプリゼンテーションに関する議論に新しい視点を提示できることを願う次第である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

01 Cynthia J. Bogel. "Hybridity and Hypothesis: Interpreting Buddhist Imagery in Ancient Japan." *CENTER 38, National Gallery of Art, Center for Advanced Study in the Visual Arts* (2017): pp. TC. National Gallery of Art, Center for Advanced Study in the Visual Arts. Research Report (2018). 査読なし

02 Cynthia J. Bogel. "Sovereign and Cosmology in Two Capitals: An Eighth-Century Buddhist Icon at Yakushiji." *CENTER 37, National Gallery of Art, Center for Advanced Study in the Visual Arts* (2017): 56–59. Washington, D.C. Research Report. (2017) 査読なし

03 Cynthia J. Bogel. "Buddhist Aesthetics," ed. Michael Kelly, *Oxford Encyclopedia of Aesthetics*, volume 2 (New York: Oxford University Press, 2014): 48–57. (2014) 査読有り

[学会発表] (計6件)

01 Cynthia J. Bogel. 「視覚文化・美術史に於ける日本の宗教」、國學院大学『国際研究フォーラム：日本の宗教はどう教えられているか』、2017年

02 Cynthia J. Bogel. "The Creation of a National Culture in Japan's Modern Period", *Architecture, Art, and Place. A workshop sponsored by Kyushu University's World Premier International Researcher Invitation Program ("Progress 100")*, 2016年

03 Cynthia J. Bogel. "Border Aesthetics: Art along/across borders." *Kyushu University, Fukuoka, Japan. International Symposium in Fukuoka: Contesting Territory-Sovereignty, Tourism and Aesthetics*. Discussant. 2015年

04 Cynthia J. Bogel. "Representing the

Unknown: The Eighth Century Pedestal of Yakushiji's Master of Medicine Buddha." *Kyoto University. International Workshop on Traditional Sciences in Asia 2015: An Interdisciplinary Investigation into Overlapping Cosmologies* アジア伝統科学国際ワークショップ：古今の宇宙観（招待ワークショップ）、2015年

05 Cynthia J. Bogel. 『ボーダーをアートする』、国際シンポジウム「ボーダースタディー福岡シンポジウム：領土という『呪い』を考える」、2015年

06 Cynthia J. Bogel. "Four Directions and Layered Cosmologies: An Eighth Century Buddhist Monument in the New Capital", 第19回日本アジア研究学会(ASCJ)年次研究大会、2015年
など

[図書] (計3件) 全て査読有り

01 Cynthia J. Bogel. Chief Editor, *Journal of Asian Humanities at Kyushu University (JAH-Q)*, vol. 3 (March 2018). A double-blind peer-reviewed journal. 160 pages. 責任編集者, 英文査読国際ジャーナル. 九州大学・人文科学府. ISSN 2433-4855 (Print), ISSN 2433-4391 (Online) (March 2018)

02 Cynthia J. Bogel. Chief Editor, *Journal of Asian Humanities at Kyushu University (JAH-Q)*, vol. 2 (March 2017). A double blind peer-reviewed journal. 150 pages. 責任編集者, 英文査読国際ジャーナル. 九州大学・人文科学府. ISSN 2433-4855 (Print), ISSN 2433-4391 (Online) (2017)

03 Cynthia J. Bogel. Volume Special Editor and Chief Editor, *Journal of Asian Humanities at Kyushu University (JAH-Q)*, vol. 1 (March 2016). *Envisioning History*. A double-blind peer-reviewed journal. 61 pages. 責任編集者, 英文査読国際ジャーナル. 九州大学・人文科学府. ISSN 2433-4855 (Print), ISSN 2433-4391 (Online) (2016)

[その他]

ホームページ

<http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/en/impjh/jahq/publishedvolumes.html>

海外招聘国際フェロシッパ

01 Senior Fellow, Center for Advanced Study in the Visual Arts (CASVA), National Gallery of Art, Washington, D.C. Ailsa Mellon Bruce Visiting Senior Fellow, June–July 2017

<http://www.nga.gov/content/ngaweb/research/casva/about-casva.html>

平成29年5月～6月 アメリカ ナショナル・ギャラリー視覚芸術高等研究所 シニアフェロシッパ給費研究員 (アメリカ・ワシントン D. C.)

02 Senior Fellow, Center for Advanced Study in the Visual Arts (CASVA), National Gallery of Art, Washington, D.C. Ailsa Mellon Bruce Visiting Senior Fellow, May–June 2016.
<http://www.nga.gov/content/ngaweb/research/casva/about-casva.html>

平成28年5月～6月 アメリカ ナショナル・ギャラリー視覚芸術高等研究所 シニアフェローシップ給費研究員 (アメリカ・ワシントン D.C.)

招聘講演

01 Cynthia J. Bogel. Columbia University. Series of workshops with the Department of Religion and the Department of East Asian Languages and Cultures. November 14, 16, 30, 2016

02 Cynthia J. Bogel. Yale University, USA. “Cosmology Beneath the Master of Medicine: The Eighth-Century Pedestal at Yakushiji, Nara.” Japan Colloquium Series at Yale University, Council on East Asian Studies at Yale University. November 29, 2016.

03 Cynthia J. Bogel. Columbia University, New York, USA. "Emperor Tenmu and a World View Represented." East Asian Languages and Cultures Seminar. November 30, 2016.

04 Cynthia J. Bogel. University of Michigan, Ann Arbor, MI. *Reassessing Kodai* Workshop. Invited lecturer. “Two Capitals, One Cosmology: Clues to a Dual History of the Temple of the Medicine Master Buddha (Yakushiji in the Fujiwara and Nara Capitals).” February 12, 2015.

05 Cynthia J. Bogel. Thangka Conservation and Preservation Center, Thimphu, Bhutan. *Inaugural Endowed Wellington and Virginia Yee Family Lecture Series*. Invited lecturer. “Moving Icons, Changing Contexts: Statues and Paintings in Ancient Japanese Temples and Comparative Questions for Bhutan.” November 13, 2015.

06 Cynthia J. Bogel. Harvard University, Cambridge, MA. Invited lecturer. “Upholding the Buddha and Raising Questions: The Eighth–Century Pedestal of Yakushiji’s Master of Medicine Buddha.” March 2014

など

6. 研究組織

(1)研究代表者

ボーゲル シンシア (BOGEL, Cynthia)
九州大学・大学院人文科学研究院・教授
研究者番号：50637931